

令和 2 年度 第2回別府市未来教育プロジェクト会議
議事録概要版

◇日 時 令和3年2月2日(火)14:30~16:30

◇場 所 別府市役所 5階大会議室

◇出席委員及びアドバイザー(11名)

花井委員 勝河委員 高部委員 村上委員 大鶴委員 古田委員
藤田委員 安倍委員 小谷委員 甲斐委員 土井アドバイザー

◇事務局(9名) 稲尾教育部長(委員長) 柏木教育部次長兼教育政策課長
北村学校教育課長 吉田教育政策課参事 志賀学校教育課参事
古本教育政策課課長補佐 田中学校教育課課長補佐
加藤指導主事 渡邊指導主事

◇傍 聴 者 11名 報道関係3社

◇議事内容

- 1 教育部長(委員長)挨拶
- 2 別府市内の GIGA スクール進捗状況について(事務局・ICT アドバイザー)
- 3 別府市の未来の教育について話そう
- 4 諸連絡
 - ・本日のアンケートのお願い
 - ・第3回別府市未来教育プロジェクト会議開催日時と開催場所について

1 教育部長(委員長)挨拶

今回の会議の話題は2つある。1つめはモデル校の南小学校で、1月の中旬から児童用のタブレットが導入され、その報告が後ほどあるので意見を伺いたい。2つめは、南小の実践を参考に、これからの別府市の教育のビジョンを考えてもらいたい。

2 別府市内の GIGA スクール進捗状況について(事務局・ICT アドバイザー)

スライド資料は別紙

- (1) 別府市 GIGA スクール全市展開に向けて、成果や課題を検証するモデル校・南小学校の児童用端末導入前の校内教員 ICT 研修の内容と様子、児童用端末を渡す際のタブレット端末開きの様子、児童用端末が導入された後の校内 ICT 研修の様子を報告した。
- (2) 国の中央教育審議会答申「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子どもたちの可能性を引き出す、個別最適な学びと協働的な学びの実現～(答申)にて、それぞれの学びを一体的に実現し「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、

- ① ICT の活用が欠かせないこと
- ② これまでの教育実践と ICT との最適な組み合わせ、教育の質の向上につなげる必要があること
- ③ ICT を活用し、教師の授業改善を目指すこと
- ④ 急激に変化する時代の中で子どもたちに育む資質・能力の育成には ICT の活用がキーとなるため、ICT を取り入れた学校の在り方を議論する必要があること

等をアドバイザーが説明し報告した後、事務局より令和3年1月末現在の市内の整備進捗状況や、令和3年3月末までの公立学校のネットワーク工事やタブレット端末の整備案について報告した。

3 別府市の未来の教育について話そう 意見交流

委員長	引き続き、タブレットを使ってどんな活用ができるか。いろんなアイデアを出し合っていたきたい。
委員	端末の管理はどのようにしているのか。親はタブレット端末とどのように関わりをもてばよいか？
アドバイザー	40台の端末を入れ充電することができる保管庫で管理している。タブレット端末の設定などを MDM <mobile device manager>というアプリケーションで一括管理している。
委員	保護者の方と話をすると、端末を持って帰ることを不安に感じている方がいる。端末の管理方法がわからないことや、情報モラルをどう育てていけばいいのかという点などが話題になることが多い。家庭へは学校から丁寧に説明する必要がある。 タブレット端末の負のイメージを払拭し、少しでも保護者のタブレッ

委員	<p>ト端末への不安を和らげたい。タブレット端末を使っている姿を授業参観などで見せたり、学校通信などで紹介したりするなどして、子どもたちがタブレット端末を使って学習している姿を知らせていきたい。</p> <p>学習のツールとしてのタブレット端末の使い方を示したい。タブレット端末が学習道具という認識がされていないので、家庭で学習に用いるということを示したい。</p>
委員	<p>PTAとして、保護者の考え方を変えていく必要がある。私たちはこれまで自分が育ってきた中で、出来上がったものを使っていた。先生が示してくれたものを使っていた。これからは、保護者も使い方を子どもたちと一緒に「作っていく」という自覚が必要だが、まだ誰もタブレット端末を使った学習をしたことがない。誰もわからない。</p> <p>「タブレット端末でどうやって勉強の仕方を教えたらいいのだろう？」と家庭で話題にし、そこで不安が話題になったのなら、その答えを先生に聞きに行くのではなく、先生と不安を共有することが大切だと思う。先生と一緒に考えていくということが、自分たち（保護者）にもできることだと思う。</p>
委員	<p>保護者の不安と同じように教師も不安だと思っている。タブレット端末などを好んで使ってきた教師もいれば、中には全く使ったことがないという教師もいる。「みんなで使っていこう。わからないこともあるだろうけど、みんなで使っていこう」と言葉に出すことが大切だと思う。</p>
アドバイザー	<p>不安の原因、不安の内容は何か。動画アプリやSNSを見るのが不安につながるのか。現在これらは社会の情報インフラの側面も持つ。これらの中にも学びはある。</p> <p>タブレット端末は子どもたちが自由にアプリをインストールすることはできない設定になっている。保護者は、家で充電をし忘れないように心がけてもらうことや、子どもたちがタブレット端末を学校に持って行くのを忘れないようにするだけで良いと思う。</p> <p>タブレット端末で動画サイトを見ることのできない設定にすることもできるが、そうすると子どもたちは、別の端末やゲーム機で動画を見ることになるだろう。不安の本質は何か？「これを見ないようにしてください」「カメラを使わないようにしてください」という要望に応え、禁止にしている自治体もあるが、GIGA スクールの目的や本質は何か。そこ</p>

委員	<p>をみなさんで考えたい。</p> <p>今のタブレット端末への不安は、新型コロナウイルス感染症の不安と一緒にだと思う。わからない、答えがない、これまでの価値観で測れないことへの不安と、一人一台端末の不安は似ているのではないか。大切なのは、タブレット端末の使い方などの情報が保護者に行き渡るかどうか。先日、情報化カンファレンスで県内の高校の発表を見たが、とても素晴らしかった。企業の方に学校へ来ていただくことは難しいのかもしれないが、「これをするため（目的）には、これが大切（手段）です」というような意見が聞きたい。</p>
委員	<p>私は県内の高校に常駐していて、授業も担当している。受け身の授業ではなく自分から学ぶこと。これをやりたいから、学ぶというきっかけを与えることが重要。生徒の困りに生徒自身で気が付くようにし、自分たちで解決策を考えさせる。これから来る Society5.0 の社会、イノベーションが求められる社会に大切なことである。</p> <p>授業をしていて困ったことと言えば、PC を使って授業をしたいというときに、学校の PC 教室が空いていなくて授業が停滞してしまうことが度々あった。これから一人一台端末のタブレットが手元にあるという環境では、そのような問題が解決できる。</p>
委員	<p>南小の様子を見て、出会いをととても大切にしているところが印象に残った。ワクワクしながらタブレットを使っている様子が良かった。フリースクールでは、まずは子どもたちにやらせてみることを大切にしている。フリースクールの教室でもタブレットがあり、ゲームをしていたが、そのうちゲームをつくりたいと言う子どもが出てきた。</p>
委員	<p>タブレット端末が有効だったことについて話をしたい。6年生の担任をしている。今、子どもたちは卒業が近づいてきて、これまでお世話になった人たちに恩返しをしたいと言い始めた。子どもたちが「タブレット端末を使っていい？」と言ってきた。「どうぞ」と言ったら、自分たちで動画共有サイトを使って調べることで、子どもたちが自分で学ぶ世界が広がっているように感じた。子どもたちが自分から進んで意欲的に学習をしていると実感した。</p>
アドバイザー	<p>「今日の授業はタブレット端末を使わないので片付けておく」ではな</p>

<p>委員長</p>	<p>く、いつでも使えるようにしておけば、学びの手段が広がるという無限の可能性がある。使わないと大人が決めつけず、触らせたい。</p> <p>次の話し合いのテーマに移る。「別府市のこれからの教育を端的にキャッチーに表現する」ということについて、何かよいキャッチコピーはあるか？「個別最適化された学び」ではイメージがつかみにくく、言葉が固い。キャッチコピーのアイデアは何かあるだろうか？</p>
<p>委員</p>	<p>子どもたちが自ら進んでタブレット端末を使い出したという、先ほどのモデル校の実践を聞いて、タブレット端末がある学習の可能性を感じた。キャッチコピーは「解決するためのツール」「タブレットで学習する楽しさ」を味わわせてくれる、わくわく BCG (B:Beppu C:クリエイティブ G:GIGA スクール) はいかがだろうか。</p>
<p>委員</p>	<p>挑戦するという意欲をもって欲しい。端末をツールとして使ってもらいたい。主体的な問題解決は、今に始まったことではなく昔から言われていた。解決する手段は十分に用意されず行き詰まっていた。一人一台端末はその手段となる。</p>
<p>委員</p>	<p>課題を解決し、学びを表出させるツール。授業で調べたことをプレゼンテーションアプリにまとめさせる授業をした。その時に思ったことが、表出させることができるもの。わくわくは、温泉が湧くという言葉にもつながり、別府市らしさがあって良いと思う。</p>
<p>アドバイザー</p>	<p>「ツール」ではなく「文具」という考えはいかがだろうか。子どもたちには、タブレット端末を鉛筆などと同じ文具として、特に意識をせずに使ってもらいたい。ツールという言葉には、意識して使うという意味が含まれているように感じている。</p>
<p>委員</p>	<p>弊社はITとデザインの会社。IT系のシステムを作ることもある。私たちの業界は、実は「アナログ」がすごく大切。企画書などをつくるときは、まず紙やホワイトボードに自分の手で書き出すところから始めることが多い。ITの企業はアナログで物事を考えるため、今後子どもたちがデジタルだけを使うということになると、私たちの業界ではとても困る。イラストのソフトウェアなどを使う際も、基本は自分の手で描くことをしている。</p>

委員	<p>もともと理科の教員だが、臭い、熱さなどの危険なことは（五感を使って）体験で学ばせたい。</p>
アドバイザー	<p>選べることが大切。A or B ではない。時と場合に応じて、アナログとタブレット端末を選ばせたい。文具は子どもが目的に応じて選ぶものである。</p>
委員	<p>大人の私たちでも、自分の手で紙に書かないと、頭に入ってこないこともたくさんある。</p>
委員長	<p>委員の意見はいろいろな子どもが「選択」できるようになることが大切という意見になっているように思う。</p>
委員	<p>以前は小学校教諭をしていて、令和2年4月からフリースクールを運営している。子どもたちがすごく好き。成長を期待している。</p> <p>やりたいけど、どうしたらいいかわからない。やりたいけど、まわりの雰囲気に入れ込めず、将来への漠然とした不安があったり、何が正解かわからなかったりする子たちが在籍している。動画共有アプリを与えてみたらどうなるかなんて、与えてみないとわからない。視聴を制限させることで、子どもたちの可能性を奪ってしまうことにつながるのではと思うこともある。</p>
委員	<p>「わくわく」という言葉に期待している。違う学校間で連携して授業しよう、学年をこえて授業しようなど、どんどんやっていい。タブレット端末で描いたものを、3D プリンターで具現化していこうというのも可能。キャッチコピーは「わくわく」がいい。</p>
委員	<p>「湯が湧く」みたいで良いキャッチコピーだ。将来タブレット端末は空気のように当たり前にある存在になればと思う。使い古しのスマホを子どもに渡して5年ほど経ったが、子どもと親が不安とともに生活してきたから私の中では不安はあまりない。</p> <p>興味が湧いた歌詞をネットで調べて、ノートに書き写していた。ギターアプリをやっていて、本物のギターを手にした。子どもが自分で使い方を覚え、可能性が広がった。使うことで、未来が広がる。自分で解決ができると、自信につながる。</p>

委員	<p>これらは子どもたちが社会に出たときに、生きる力としてとても必要なことと思う。タブレット端末は楽しいもので、いっぱい未来が詰ったもの。だからキャッチコピーは「わくわく」がいい。</p> <p>意識せずとも当たり前にある空気のような存在であってほしい。教えるというよりも、子どもたちが自分で使い方に気が付くというものであってほしい。</p> <p>先生の不安は、主に授業中の機材の不具合にある。機材トラブルが起こったとき、インターネットに繋がらなかったときなど、どうしたらいいかわからないという経験があった。先生方が困ったときに対応できる、例えば、再起動を試してみるなどの対処法を知っているかどうかで先生方のタブレット端末への不安の多くが解消されるものと思う。タブレットを使うことは、自転車の乗り方を会得することと同じようなものと思う。自転車は乗ることができると、わくわくするものだから。</p>
委員	<p>学校全体をわくわくにすることをしてきた。土井先生のサポートがないとできなかった。先生方には、「やらないといけないんです」と繰り返し言い、共通の土俵に立たせてきた。管理職や教務主任からも呼びかけをしていただいた。初めは「いやだ、やりたくない」と言っている先生もいたが、苦手な先生のためにも、教師が学校内で共通の研修の機会を設定することが大切と思う。キャッチフレーズは、「わくわくひろがる空気のように きみのともだち」などを思い浮かべた。</p>
委員	<p>先生が「苦手だからできません」と言われると言っていたが「そもそも、それを言うてはいけない」と思う。</p>
アドバイザー	<p>先生の不安をどのように解消するかということにあるように思う。先生の不安やメンタルをどのようにサポートしていくか。モデル校の南小では、タブレットを一度も触ったことがないという先生もいて、先生たちの不安解消に力を入れた。研修を重ねて、理解を深めた。モデル校である南小の姿を、別府市全体に展開することが大切になる。</p>
委員	<p>現場には今、何も知らされていない、どんなアプリが入っているのかもわからない。現場はいつも忙しいから、現場だけでICTの研修を頻繁にすることは難しい。</p>

委員	<p>校長の考え方も変わらないといけない。アドバイザーが、デジタルシ ティズンシップ教育が目指す姿と言っていた。内容は、外国の情報モラ ル教育について。このことを、別府市内の小中学校の全員の先生にわか りやすく、発信してもらえると、ICT を教育に取り入れるイメージの共 有化が教師の中でもできるのではないか、と思う。</p> <p>別府市全体がチームとなり、これから別府市のGIGA スクールを進め ることができたらとモデル校の校長として希望を感じている。</p>
----	---

4 諸連絡 (事務局)

- 本日のアンケートのお願い

- 第3回別府市未来教育プロジェクト会議

令和3年3月10日(水) 14:30~16:30

別府市公会堂(中央公民館)1階 講座室

別府市中央公民館 HP

